

【番外編】 チャレンジと失敗の経験は「交渉力」を学ぶチャンス

仕事に就いて働いていると様々な場面で交渉することがあり、交渉のスキルが必要とされます。子育て中の皆さんには、この交渉力を、お子さんが子供の頃から身につけさせていくという視点に立ってみることをお勧めします。

ここで言う「交渉」とは、「他人とのやりとり」とも言えます。「押したり、引いたり」「あちらを立てて、こちらも立てる」「まずいときは、黙る」「知らない振りもする」「小さな嘘も必要ならつく」など、折り合い点を見つけていく作業、つまりコミュニケーションの一つのパターンとも言えます。揉めたり、うまくいかず物事の收拾がつかなくて仕切り直しをすることなども、この作業のひとつでしょう。

また、現実社会では、国と国、人と人の紛争や、経済問題など、人々の日々の活動においては、あきらめずに相手と交渉することが続いています。働き始めたら、職場でも様々な場面で交渉します。就職活動も交渉の一つと言えます。

こうした「交渉」を進める力、交渉力を、子供の頃から身に付けさせるとはどのようなことか、説明します。

子供の頃のチャレンジや、それに伴う失敗、大人から見て危ないと思うような場面こそ、この交渉力を学ばせる良いチャンスなのです。「思春期は将来社会の中で生き抜いていくための(よりよい人生を送るための)交渉力を身に着ける時期」ということを発信している社会学者もいます(*)。

この「チャレンジ」とは、子供が自ら未経験の世界に飛び込んで体験し、失敗を繰り返して、大きく成長し、次のステップに進めるような経験のことです。それには失敗や多少の危険が伴う意ことでしょう。冒険の要素が含まれることもあると思います。例えば、小学生くらいであれば、子供たちだけで遊園地に行くとか、夏休みに兄弟姉妹だけで旅行し、祖父母の家などの普段とは違う環境で過ごすとか、得意なスポーツを極めるためにプロの選手に弟子入りして練習するとか、もっと大きい子供なら興味がある分野について調べるために海外に留学するとか。こうした「チャレンジ」には、おそらく、失敗して困ったり、頼れる人がいない中で自分なんとかしなくてはならない状況があり、他人に頼みごとをしたり、助けてもらうなど、他人といろいろなやりとりをするでしょう。

子供のうちに「チャレンジ」するためには、お金のことも含めて親に相談しなければなりません。この相談するということが、交渉の一つです。このような機会があったら、親は危険な場面をいろいろ提示して「その時、どうする？」と聞いてみてください。親にとって十分な説明を返してこないかもしれませんが、危険について考えることになるので、子供に問いかけるという「やりとり」が大事です。子供の「それでもチャレンジしてみたいんだ」という気持ちを萎えさせないように、でも危険についても考えられるように配慮して、やらせてみましょう。他人とのやりとり以外にも、親とのやりとりもすることになり、子供の交渉力は鍛えられていきます。

日常の中にあるこうした経験を大切に、さらに大きなチャレンジの機会があれば、ぜひさせてあげてほしいと思います。他人と交渉する経験をしたり、家庭で交渉することを学べた子供は、交渉力を身に付け、強くなっていきます。

さて、大人からは危なっかしいこと、チャレンジをしようとする子供の様子を見ながら、どこまでやらせるか？ 失敗したときどうフォローするか？ 何をどこまで許すか？を考え続けなければならないのが親の役割ということになります。どこまで黙って見守るのか？ とことん話し合うのか？ 叱りつけるのか？ 時々口出しはするのか？ などなど、子供と正面から向き合うので、親にとってとてもエネルギーのいる作業です。

親が判断するにあたって考えなくてはいけないことは、第一に、子供の年齢に応じた許容範囲での行動かどうか。これは、本人がそれまでに身に付けてきた思考力や実行力、ルールやマナーの理解と遵守、自分の行動に責任を持てるかどうか、そして家庭の経済状況も関係します。

また、親をはじめ周囲の大人の価値観とのすり合わせも必要です。特に母親父親の価値観の違いや、祖父母世代とのギャップなども含めて、考えていかななくてはなりません。冒険させようとする一人の親の意見を尊重すれば、心配性のもう一人の親の感情が乱れたり、両親の意見は揃っているのに、祖父母世代が口を挟んで来て揉めるとか、家族はみな合意しているのに学校が許可しないと、やらせようと思ってもお金がないとか。

「あちらを立てれば、こちらが立たず」、親にも交渉力が必要とされます。子育てには、親子共々交渉力が大切ですね。

* 山田昌弘： 専門は家族社会学

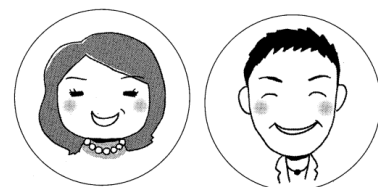
著書に「パラサイトシングルの時代」(ちくま新書) 他多数

共著「うちの子もしかして反抗期？」と思ったら読む本」(主婦の友社編)

執筆： 認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐ実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



墓田さん

森さん

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。